

2024 年度「卒業研究」

東京経済大学コミュニケーション学部コミュニケーション学科

21 c 1254 奥富彩花

～ディズニー映画が人々に与える影響について～

要旨

ディズニー映画を製作している会社「ウォルト・ディズニーカンパニー」は、2023 年 10 月 16 日に、100 周年を迎えた。そんな長い歴史のあるディズニー映画であるが、近年『アナと雪の女王』や『ズートピア』など多様化していることが注目されている。そんな中、多様化したディズニー映画のストーリーやキャラクター達が人々の価値観や、心理などにどのような影響を与えるのかを探ることをすることを目的とする。

2 章では、ディズニー映画の何が魅力的かについて、アニメーションの動作を紹介し、アニメーションによる音楽は感情移入させることが明らかにした。

3 章では、ディズニープリンセスについての概要を初めに記し、映画『シュガーラッシュオンライン』に出てきたシンデレラから、アナと雪の女王のエルサまでの 14 人をプリンセスと定義づけ、時代と共に、ディズニープリンセスがどのように変わっていったなどを調査し、時代背景と共に、記載した。初期のプリンセス達は受動的で王子様を待つことが特徴として挙げられたのに対し、最新のディズニープリンセスは能動的で活発な性格のキャラクターが多く登場している。また、昔は、王子様と結婚＝幸せということがストーリー全体で描かれていたが、最近では、王子様と結婚しないプリンセスも多く登場し、必ずしも結婚＝幸せではないことが分かる。また、昔のキャラクター達は白人であることが美の象徴とされていたが、しかし、近年では多様化しており、『プリンセスの魔法のキス』のプリンセスであるティアナを始めとし、黒人プリンセスが出始めた。

4 章では、3 章のプリンセスの変容でも例を挙げたように、ディズニー映画が多様化してきたことが分かった。ここでは、多様性を「人はみなその価値において等しく尊いという人権概念を核にして、さらに人はみな違うからこそ尊いとの認識に立つ考え方である」ことを定義とするが、『ズートピア』などの多様性に目を向けた映画からは他人にどう思われようと大切なのは自分がどう思うか、どうしたいかということが表現されている。また、多様化の広がり、差別や偏見など減少させ、コンプレックスを抱える人に自信を与えることが期待できる。

5 章では、「自分の能力を最大限に発揮することで自分と周囲を幸せにできている、人間として最高に充実した状態」を「自己実現」と呼び、ディズニーの「あきらめなければ夢は叶うという」メッセージは観客の自己実現の手助けになると考えられることを論じる。

まとめでは、ディズニー映画が人々に与える、社会的影響と心理的影響について述べる。社会的影響としては、時代に連れて変わっていくプリンセス達の女性性や、多様性の広がり

よる人種関係の変化が挙げられます。心理的影響としては、辛いことがあった時でも、ディズニーの夢の様なお話は人々に感動や喜びを与えることや、自己肯定感の促進などが挙げられると考えた。